

宇久島神社所蔵「神浦月川神職家古文書」目録

門田, 飛央
福井工業高等専門学校 : 助教

蛭沼, 芽衣
九州大学大学院人文科学研究院 : 助教

村上, 義明
九州大学大学院 : 博士後期課程

吉田, 宰
九州大学大学院 : 博士後期課程

<https://doi.org/10.15017/3077266>

出版情報 : 文献探究. 57, pp.1-15, 2019-03-31. 文献探究の会
バージョン :
権利関係 :

宇久島神社所蔵「神浦月川神職家古文書」目録

門屋飛央 蛭沼芽衣

村上義明 吉田 宰

はじめに

本稿は、長崎県佐世保市宇久町神浦にある宇久島神社の文庫目録である。五島列島の最北端に位置する宇久町は、宇久島本島とその属島の寺島からなる町である。面積は本島が二五・〇平方キロメートル、寺島が一・四平方キロメートルである。本島の中央には、城ヶ岳（二五八・六メートル）がそびえ、四方に緩やかな傾斜をもっている。

『宇久町郷土誌』（一九六七、二〇〇三）によれば、宇久島神社は、元亀元（一五七〇）年、神浦郷宇志自岐浦、志自岐宮の社（祭神十城別命（とおきわけのみこと）、七郎氏広（しちろううじひろ））並びに小島崎の天満宮の社（祭神菅原道真）の両社を合併して、天神山に社殿を建立奉祀したのが始まりであるという。その後、元禄元（一六八八）年に、志自岐三社大明神と称えながら、現在の地に産土神社として奉祀された。明治四（一八七二）年に、宇久島神社と改称された。

宇久町は、壇ノ浦の合戦で敗れた平家盛が、宇久島に流れ着いたということでも知られている。家盛が上陸したとされる島の西北端の岬

は、付近の漁師が家盛を助け、火を焚いて暖をとらせたということから、火焚崎（ひたきざき）の名がつけられている。その伝説の真偽は措き、その家盛の家系は宇久家となり、宇久島を治めた。宇久家は、のちに福江島に移り、五島家を名乗って五島列島を治め、近世期には五島藩主となる。五島家は宇久島神社に、代々崇敬の神社として幣帛を寄進し、大祭の時には、藩主自身参拝し、供物を供進していた。

月川家は、延宝二（一六七四）年の初代月川新五太夫より、この宇久島神社の宮司を代々務めている。当家には、近世期から現在に至るまでの当神社の祭祀に関わる古文書を中心に、貴重な史料が蔵されている。これらの史料を、『宇久町郷土誌』の記述に倣い、「神浦月川神職家古文書」と呼ぶ。我々は、これらの古文書を、第十四代目で現宮司の月川徹氏の許しを得て、このたび調査するに至った。各資料の詳細な情報は、今後の調査にゆだね、まずは簡易目録によって全体像の把握を試みた。今回の報告によって、宇久島の歴史や文化を知る一助としたい。

凡例

- 一、本目録は、宇久島神社宮司の月川家に所蔵される古文書の目録である。
- 一、記載する項目は、書名、編著者等、刊写、書型、外題、内題（角書はへ～で示した）、巻冊数、序跋、奥書・奥付（刊記）の九つを基礎とし、必要に応じて情報を追記した箇所がある。なお、書型の縦横の長さは、センチメートルで表した。
- 一、右の各項目に関して、該当する情報がないものは、紙幅の都合上、項目そのものを省略した。
- 一、奥書や跋文等の引用に際して、改行されている箇所は／で示した。また、虫損等で判読できない文字は、□で示した。
- 一、本目録は、引用を含めて原則として通行の字体で統一した。
- 一、書名に「一」があるものは、仮題である。

和装

神道名目類聚鈔

大本（縦二五・七×横一七・四） 六卷一冊 刊

外題「神道名目類聚抄」。元禄十二年六月・城西野殿某序。刊記に「正徳四年天王寺屋□兵衛」とあり。巻六巻および刊記、破損激し。

三大考

服部中庸 大本（縦二六・五×横一八・五） 一卷一冊存

刊

内題「三大考」。寛政三年・服部中庸序、宣長跋。巻末に「寛政三年五月二十五日に書きおへぬ 服部中庸」とあり。柱に「古事記伝十七附」とあり。巻末に「尾陽東壁堂蔵目録之内歌書之部」（二丁）を付す。

祝詞考

賀茂真淵 大本（縦二四・八×横一七・五） 三卷一冊 刊

内題「祝詞考」。明和五年・賀茂真淵序、寛政十二年三月・荒木田神主久老跋。刊記に寛政十二年十一月・（大阪）河内屋喜兵衛ほか三肆、発行書肆十三肆あり。綴じ糸はずれ。

古事記

大本（縦二六・〇×横一八・五） 三卷三冊 刊

内題「古事記」。寛政十一年・本居宣長序、享和三年・長瀬真幸跋。奥付に享和三年十月・（京都）菱屋亦兵衛ほか二肆あり。序題に「新刻古事記」とあり。刊記に「寛政十一年己羊五月十日御免」とあり。朱筆書入れ多数あり。

古事記伝

本居宣長 大本（縦二六・一×横一八・五）

四四卷四四冊、目録三卷三冊、附録一卷一冊揃 刊

内題・外題「古事記伝」。「天保十五年／甲辰九月再校／尾州名古屋本町通七丁目／永楽屋東四郎／江戸日本橋通本銀町二丁目／同出店」。発行書肆十三肆あり。附録の柱に「古事記伝十七附」とあり。目録巻下の巻末に「文化五年辰正月／鈴乃屋蔵板」とあり。

たまだすき 伊吹廼屋先生(平田篤胤)

大本(縦二六・八×横一八・四) 十卷十冊 刊

内題に「たまだすき」。嘉永三年三月・神祇伯資敬王ほか一名序。卷末に附録あり。卷末に「伊吹廼屋先生及門人著述刻成之書目」(一丁)を付す。

祝詞正訓 大本(縦二六・五×横一八・二) 二卷一冊 刊

内題「□詞正訓上卷」。安政五年五月・高玉安兄跋。

古易断時言 新井白蛾 半紙本(縦二二・〇×横一五・五)

一卷一冊 刊

内題「古易断時言」。卷三存。

啓蒙日本外史 東陽大槻誠之解、益軒渡邊約朗校

中本(縦一八・四×横一二・五) 三五卷三五冊 刊

内題・外題「啓蒙日本外史」。見返しあり。明治七年一月・磐溪大槻、ほか一名序。紀元二五三〇年(明治七年)・鳥屋儀三郎、ほか五肆あり。見返しに「明治六年／二月官許／何不成社蔵」とあり。

統紀歴朝詔詞解 本居宣長 大本(縦二六・〇×横一八・二)

六卷六冊 刊

外題に「統紀歴朝詔詞解」。享和三年三月・大神安守序、奥付に「明治九年二月本居健亭」とあり。享和三年・須受能耶蔵板本の後印本。

校訂日本紀 田中頼庸校訂 大本(縦二六・二×横一八・〇)

二卷二冊 刊

外題「校訂日本紀」、内題「校訂日本紀」。明治十三年・田中頼庸序、奥付に「明治十三年五月二十九日版權免許／同年同月刻成／十四年一月三十一日再刻御届／校訂兼出版人鹿兒島県士族田中頼庸」とあり。

固本策 渡辺重石丸 大本(縦二六・三×横一八・五) 五卷一冊

刊

外題「□□策」、内題「固本策」。明治二十年十二月・豊城居士渡辺重石丸跋。奥付に明治二十二年三月・(著者兼発行者)渡辺重石丸・(印刷者)魚住長胤・(発行所)道生館。扉に「道生館蔵版」とあり。

支那史要 市村瓊次郎 半紙本(縦二三・〇×横一五・三)

二卷二冊 刊

外題・内題・見返し「支那史要」。上巻・明治廿八年四月十二日訂正五版、下巻・明治二十八年八月十五日訂正五版、吉川半七(発行)、杉原弁次郎(印刷)。二冊とも見返しに「明治二十七年十二月十四日／文部省検定済」とあり。

標箋正文軌範 原田由己 半紙本(縦二二・六×横一五・二)

七卷三冊 刊

外題・内題「標箋正文軌範」。刊記に明治廿八年五月廿八日三版・(編輯人)原田由己・(発行人)水野幸・(発売人)水野慶治郎。内題は巻一による、外題は第三冊目に一枚挟みこまれていたものによる。

標箋正文軌範 原田由己 半紙本(縦二二・六×横一五・二)

七卷四冊 刊

外題「(原田/由己/編輯)標箋正文軌範」、内題「標箋正文軌範」。月痴迂生序。刊記に明治二十八年五月二十八日三版・(発行人)(東京)水野幸・(発売人)(東京)水野慶治郎。内題は巻一による。

漢文読本 指原安三 半紙本(縦二二・三×横一四・七)

二卷二冊 刊

外題・内題「漢文読本」。巻七、八存。奥付に「訂正再版」明治三十年二月・(東京)(発行兼印刷者)辻太・(印刷兼発行所)普及舎とあり。

万葉集略解 橘千蔭 半紙本(縦二二・八×横一五・四)

六卷七冊 刊

外題「万葉集略解」、内題「万葉集」。奥付に明治三十二年九月廿九日・(発行者)辻本末吉・(印刷者)片山克武・(発売所)辻本修学堂とあり。

枕草子詳解 松平静著、黒川真頼校閲、飯田武郷校閲

三卷三冊 刊

尾題「枕のさうし」。明治三十一年十二月・飯田武郷・黒川真道・芳賀矢一序、明治三十二年十二月・松平静跋。明治三十二年二月(上・中編)、明治三十三年二月(下編)。上編・桜の巻、中編・葵の巻、下編・楓の巻。誠之堂書店刊。

漢文読本史記列伝抄 村上自彊、中島幹事編次

半紙本(縦二二・四×横一四・七) 二卷二冊 刊

外題・内題「漢文読本史記列伝抄」。巻一・明治三十二年四月五日再版・明治書院(東京)、巻二・明治三十三年十一月廿五日三版・明治書院(東京)。

四書集註 朱熹 大本(縦二六・六×横一五・二) 十四卷四冊 刊

外題「論語(一、二)孟子(三)大学、中庸(四)」、内題「論語(一、二)孟子(三)大学、中庸(四)」。扉に「商務印書館蔵版」とあり(一、四冊目)。

四書集註 中本 六卷六冊 刊

外題「大字精校四書集註」、内題「掃葉山房蔵版」、見返し「民国十六年影印/掃葉山房商標」。大学・中庸で一冊、論語二冊、孟子三冊。

広日本文典 大槻文彦 一卷一冊 刊

古典容義 皇典講究所（目黒和三郎） 一巻一冊 刊

明治四十二年三月序。明治三十年一月・皇典講究所・國學院大學出版部刊。

富江五島系譜摘要 半紙本（縦二四・二×横一六・五） 一巻一冊 刊

外題「富江五島系譜摘要」、内題「旧五嶋富江藩系譜并履歴摘要」。

社領覚之帳 月川平三郎 大本（縦二七・〇×横一九・三）

一巻一冊 写

外題「社領覚之帳」。表紙に「延宝九辛酉九月吉日」とあり。仮綴じ。

口浦神社記 縦一一・二×横三一・四 一巻一冊 写

寛保二年の年記あり。

神浦神社建立 献主集 并 社地普請建立等之次第此一冊口

縦三〇・八×横二一・八 一巻一冊 写

寛延三年の年記あり。

志自岐天神御社并境内修料一ヶ年二十八文錢三拾目宛寄付仕候帳面

神浦村中 縦三一・二×横二二・〇 一巻一冊 写

寛延三年十月。

志自岐天神御社并境内修覆料一ヶ年八十文錢三拾目宛寄附仕候帳面

縦二四・四×横一七・〇 一巻一冊 写

表紙に「寛延三庚年十月ヨリ」「献主 神浦村中控」とあり。寛延三年十月の年記あり。

宇久神浦鎮守 天満宮鳥居奉賀 大本（縦二七・二×横二一・〇）

一巻一冊 写

明和三年十一月の年記あり。

志自岐 天満宮 普請銀高 戌十月勘定 縦二三・五×横一六・三

一巻一冊 写

表紙に「寛政二年」とあり。

志自岐宮 天満宮 御殿再興二付 寄進帳

半紙本（縦二四・七×横一六・五） 一巻一冊 写

表紙に「寛政二年」「戌春」「月川求馬」とあり。卷末に「享和二年戌九月吉日祠官月川勒負／平貞則」とあり。

吉田上納銀高覽 縦二四・〇×横一六・二 一巻一冊 写

表紙に「文化十三歳」「月川波江」「子六月吉日」とあり。末尾に「文化十三年十月 月川波江代」とあり。

月影之巻 縦二〇・五×横一四・二 一巻一冊 写

天保三年。

上京勸化帳 月川志津馬（主計） 縦二三・七×横一六・五

一巻一冊 写

表紙に「天保六歳」とあり。天保六年末二月吉日。

月川家官職之次第 縦二三・七×横一六・〇 一巻一冊 写
安政五年の年記あり。

御女義様 御四方様 御口船御寄船日記

半紙本（縦二四・二×横一六・五） 一巻一冊 写

表紙に「慶應三年」「月川衛守扣」「寅五月十九日」とあり。

官職二付勸化帳

月川主計 縦二三・〇×横一五・八 一冊 写

表紙に「天保六歳」とあり。天保六年三月吉日。

〔鳥羽絵〕

横本（縦二〇・二×横二三・五） 一巻一冊 写

「弘化三年丙午十二月廿三日／鳥羽車 全三冊出来／鳥羽絵扇的同／同三国志／（住所略）／河内屋喜兵衛／（住所略）／河内屋栄助／加茂常三郎写之」とあり。巻末に「一本松／加茂清吾郎」とあり、手彩色。

五島統之丞様御家婚二附御代参日記扣

半紙本（縦二四・四×横一六・五） 一巻一冊 写

表紙に「慶応三年」「月川衛守」「寅十月十日」とあり。

天満宮御神徳歌

半紙本（縦二四・五×横一七・〇） 一巻一冊 写

外題「天満宮御神徳歌」。巻末に「明治八乙亥正月廿八日／防洲上ノ関ニテ写之／月川邦友の書也」とあり。

天満宮九百五拾年御祭礼諸色入用帳

縦二二・五×横三三・五

一巻一冊 写

表紙に「嘉永五年」「子九月吉日」「月川主計」とあり。

管公九百年七拾五歳祭礼神行簿

縦二二・〇×横三二・〇 一巻一冊 写

写

明治九年十一月。

天満宮九百五拾年御祭礼二付諸方

縦二二・五×横三三・五

一巻一冊 写

表紙に「嘉永五年子九月廿〇日」「月川主計」とあり。寄進帳。

三崎神社拜殿普請計算簿

月川衛守 縦二二・〇×横三一・〇 一冊 写

写

明治十四年七月五日、仮綴じ。

官職二付勸化帳

月川勸負 縦二四・七×横一六・七 一冊 写

表紙に「安政五年」とあり。安政五年十一月吉日。

殿島神社龍神祭記

縦二二・二×横一六・〇 一巻一冊 写

明治二六年の年記あり。

三社例祭諸入費簿 横本(縦二二・〇×横一六・五) 一巻一冊 写

表紙に「明治廿六年」「旧九月」とあり。三十六年度までの書き入れあり。

祈年祭諸入費并二并当料割附 縦二二・三×横三三・五

一巻一冊 写

表紙に「明治廿八年宇久島神社」「未旧三月社務所」とあり。昭和九年四月二十一日付の記載までを収める。

〔宇久嶋神社餞別帳ほか〕 半紙本(縦二二・三×横一五・〇)

五巻一冊 写

『宇久嶋神社餞別帳』(明治廿八年四月)、『装束寄附帳』(明治廿九年)、『装束寄附依頼簿』(明治廿年旧五月廿五日)、『宇久嶋神社餞別帳』(明治廿八年四月)、『寄附帳』(明治九年四月二十五日)を合綴したもの。

菅公御歳祭寄附帳 半紙本(縦二四・七×横一六・二) 一巻一冊 写

表紙に「明治廿三年」「社務所」「子 旧九月吉祥日」とあり。明治三十三年九月・宇久島神社社務所序。

菅公御年祭仮寄附簿 縦二二・二×横三一・六 一巻一冊 写

表紙に「明治廿三年／子旧九月」と墨書き、瀬尾関太郎(世話人)。仮綴じ。

〔十城別命略伝ほか〕 半紙本(縦二四・八×横一六・五)

二巻一冊 写

外題「十城別命略伝」。「十城別命略伝」(表紙に「志自岐山記抜萃／大正八年九月」とあり)と「肥前国平戸志自岐山縁起抜書」(表紙に「元禄五年壬申稔五月日」などあり)を合綴したもの。仮綴じ。

御神幸列順序 縦二四・六×横一七・八 一冊 写

表紙に「昭和十八年十月廿四」「宇久島神社」とあり。仮綴じ。

管公千百年祭 御神幸行列順序 縦二四・二×横一六・三

一巻一冊 写

表紙に「昭和十九年十月廿四日」「宇久島神社」とあり。

〔例祭〕御神酒仕出高扣 縦二二・二×横一六・二 一巻一冊 写

諸祝儀留 横本(縦二二・〇×横三一・〇) 一巻一冊 写

外題に「諸祝儀留」。仮綴じ。朱の書き入れあり。

一枚物

後奈良院御繪旨 惟房 一枚 写

天文二年十二月三十日付。吉田侍従へ宛てたもの。包紙あり。

〔神道裁許状〕 卜部兼連 一枚 写

貞享元年七月十三日付。月川壹岐守平貞述への裁許状。

〔神道裁許状〕

月川志岐平貞栄 一枚 写
元文五年十一月三日付。高辺新五大夫への裁許状。

十二社大権現御祝詞

高部新五太夫 全一紙 写
寛保二年の年記あり。

高部新吾大夫書状

全一紙 写
九月七日付。

月川新吾大夫覚書

書簡全二紙 写
酉十月付。

八幡宮御祝詞

高部新五太夫 全一紙 写
寛保二年の年記あり。

賀喜添地処覚書

泊半兵衛、林友右衛門 全一紙 写
寛延二年三月二日付。

〔奉献状〕

全二紙 写
寛延二年九月付、寛延三年八月六日付の二通あり。献上主泊半兵衛。

〔奉献状〕

山田正的、山田甚兵衛 全一紙 写
寛延三年庚午八月六日付。

〔奉献状〕

全一紙 写
寛延四年一月二四日付。

奉願口上覚

書簡全二紙 写
宝暦二年十二月十五日付。

〔神道裁許状〕

月川壹岐平貞栄 一枚 写
宝暦十三年四月付。月川左太夫平易貞への裁許状。

〔神道裁許状〕

卜部朝臣 一枚 写
安永十年三月付。月川左門平貞正への裁許状。

開発御免札松園治右衛門殿印

書簡全三紙 写
明和二年九月十日付。包紙はふたつあり、うちひとつは目録書名、さらにそれを包むものには「福酒川新田に関する書類」と墨書あり。

〔覚書〕

全二紙 写
安永二年の年記あり。後欠。

〔神道裁許状〕

卜部朝臣 一枚 写
安永十年三月付。月川相模平貞易への裁許状。

関東御条目

全二紙 写
天明二年九月十一日の日付あり。

二十八ヶ条 月川大隅平貞安 一枚 写
寛政四年七月付。月川覚馬都陳への授与状。

〔神道裁許状〕 月川大隅平貞安 一枚 写
寛政四年七月付。月川覚馬への裁許状。

五島家六代運龍殿の立願書 五嶋右膳源運龍 全一紙 写
書名は包紙による。寛政十二年付。

〔神道裁許状〕 卜部朝臣 一枚 写
享和二年四月十一日付。月川勅負平貞則への裁許状。

文化二年代官への覚 全三紙 写
包紙に「昭和三十二年より百五十五年前」とあり。前欠。

〔神道裁許状〕 卜部朝臣 一枚 写
文化十三年六月十六日付。月川波江への裁許状。

〔神道裁許状〕 卜部朝臣 一枚 写
天保六年五月六日付。月川主計への裁許状。

〔奉勸請状〕 小野朝臣加賀氏倫 全一紙 写
天保十年六月の年記あり。

〔添書ほか〕 全五紙 写
嘉永三年の年記あり。

天満宮祝詞 月川主計邦政 全二紙 写
嘉永五年子九月廿四日付。包紙に「嘉永五年九百五十年祭祝詞」とあり。

〔覚書〕 松屋亀右衛門 全一紙 写
安政四年正月二十九日付。

〔神道裁許状〕 卜部朝臣 二枚 写
安政五年十二月二十八日付。月川衛守平都友への裁許状。

志自岐天満宮祝詞 一枚 写
「今年慶応三年」とあり。

志自岐天満宮祝詞 月川衛守 二枚 写
「慶応三丁卯霜月」とあり。

〔覚書〕 全一紙 写
慶応四年十月十二日付。

〔正月付月川勅負・同波江宛鈴鹿筑前守・鈴鹿豊後守書簡〕 一通 写

奉願口上覚 全二紙 写

明治六年二月付。同内容の覚書あり。

〔祝詞〕 一枚 写

明治十八年旧八月二十日付。

〔明治九年九百七十五年御祭祝詞〕 一枚 写

明治九年九月二十五日付。

祝詞 一枚 写

明治十八年十月三日（旧八月廿五日）。

〔明治九年九百七十五年御祭祝詞〕 一枚 写

明治九年九月二十五日付。前欠。

〔祝詞〕 一枚 写

大正六年三月二十一日付。

〔神主辞令〕 長崎県 一枚 写

明治九年九月廿九日付。月川衛守へ宛てたもの。

答辞 一枚 写

大正年間写。

祝詞 一枚 写

明治九年十二月九日（旧十月廿五日）。

〔祝詞〕 一枚 写

「皇御孫命乃御代御代弥継々承継伎伝来坐志弓今年波志母二千六百年尔成里奴」とあり。

仮殿祝詞 一枚 写

明治十二年卯旧九月二十四日付。

〔祝詞〕 一枚 写

「文月吉日」とあり。

上棟祝詞 一枚 写

明治十三年一月二十五日付。「月川衛守」とあり。

大殿祭 一枚 写

年次未詳。

祝詞 一枚 写

明治十八年（旧八月一日）。

〔祝詞〕 一枚 写

年次未詳。

〔祝詞〕 一枚 写

年次未詳。

〔祝詞〕 一枚 写

年次未詳。

〔祝詞〕 二枚 写

年次未詳。

〔祝詞〕 一枚 写

年次未詳。

神楽祝詞 一枚 写

年次未詳。

仮屋祝詞 一枚 写

年次未詳。

船祓 全二紙 写

年次未詳。

〔美濃守六人部宿祢是香詠草〕

六人部是香 全一紙 写

〔西海徳勝書〕 全一紙 写

軸物

地理家鑑察和解 卷子本 一軸 写

内題「地理家鑑察略和解」。末尾に「天保十巳亥歳二月鑑 撰者賀 茂由記延之誌」とあり。

〔月影の巻〕 卷子本（縦二八・二×横三三〇・五） 一軸 写

五輪書。安政六年・泊次郎右衛門写。

〔水の巻〕 卷子本（縦二八・二×横六五九） 一軸 写

五輪書。万延元年・泊次郎右衛門写。前欠。

連判状 卷子本 一軸 写

明治元年十月二十八日付。『宇久町郷土誌』（一九六七）の一三二頁に記述あり。

〔掛軸〕 掛軸（縦一三三・二×横二八・二） 一軸 写

箱入り。発句。手彩色。

〔掛軸〕 安永龍峯 掛軸（縦一三四・〇×横二八・八） 一軸 写

「安永龍峯書（かな文字）」と墨書。

〔掛軸〕 掛軸（縦八九・六×横三二・八） 一軸 写

「蓮の画」と墨書。

〔掛軸〕 小原国芳 掛軸（縦一四三・一×三四・二） 一軸 写
「小原国芳／玉川大学長／月川波江蔵書」。「迎蘭芳堂謹製」の印あり。

馮鏡如書

掛軸（縦一一四・五×横三〇・〇） 一軸 写
「馮鏡如書／中国人／日本長崎へ 亡命者」（月川波江蔵書）。

康文書

掛軸（縦一〇二・五×横三〇・二） 一軸 写
「康文書（四海之恩 天地乃徳）／月川主計」。

伊勢神宮図

掛軸（縦八〇・五×横三〇・二） 一軸 写

鶴図

掛軸（縦一一七・〇×横三〇・〇） 一軸 写

〔鹿図〕

掛軸（縦一一〇・八×横三〇・二） 一軸 写

〔笛堂画〕

笛堂 掛軸（縦一三七・五×四二・五） 一軸 写
「笛堂／昭和時代 唐津／月川波江蔵画」。

米内光正書

米内光正 掛軸（縦一四〇・八×横三三・三） 一軸 写
礼記下学記第十八の漢詩あり（月川波江蔵画）。

玉芳画（竹に雀）

玉芳 掛軸（縦一四一・五×横三二・〇） 一軸 写
「佐世保市日本／大正昭和時代／画家江原玉芳（月川波江蔵画）」。

辻本史邑書

辻本史邑 掛軸（縦一四四・〇×横三三・〇） 一軸 写
表紙に「辻本史邑／史邑書／昭和時代／寧楽書道会長（月川波江蔵画）」とあり。

龍峯書

安永龍峯 掛軸（縦一四二・二×横三三・〇） 一軸 写
表紙に漢詩あり。「昭和時代佐世保書道会長／安永龍峯書（月川波江蔵書）」。

鐵秀筆山水画

富岡鉄秀 掛軸（縦一二八・五×横四一・七） 一軸 写
「富岡鉄秀の高弟／月川波江蔵画（平戸にて求む）」。

〔梅花画〕

糸白斎 掛軸（縦一二八・三×横五〇・一） 一軸 写
表紙に「梅花」とあり。

狸画

掛軸（縦一〇〇・〇×横二七・五） 一軸 写

〔月前初雁歌〕

安仲 掛軸（縦一二八・三×横二六・〇） 一軸 写
表紙に「初雁の書」とあり。

〔田景秋書〕

掛軸（縦九八・〇×二九・〇） 一軸 写
表紙に「田影秋」とあり。

〔書〕

掛軸（縦一三六・七×横二三・三） 一軸 写

宣戦之詔勅 掛軸（縦一・二八・〇×横四一・〇） 一軸 刊
「明治三十七年／日露戦争詔勅」。

日本馬装沿革全圖 刷物（縦三八・二×横九五・四） 一枚 刊

下部に「明治卅三年三月七日印刷 全年全月十二日発行」とあり。

（発行所）東京造画館・（画作印刷兼発行人）塚本岩三郎。

〔掛軸〕 掛軸（縦一三七・五×横三二・〇） 一軸 刊

「大楠公遺訓」と墨書。

〔美人画〕 菊川英山 掛軸（縦七一・二×横四一・二） 一軸 刊

浮世絵多色刷。菊川英山筆。

洋装

言海 大槻文彦 刊

第一冊（お以上）明治廿二年五月五日印刷同十五日出版、第二冊（自か至き）同廿二年十月廿五日印刷同卅一日出版、第三冊（自し至ち）同廿三年五月廿五日印刷同卅一日出版、第四冊（つ以下）同廿四年四月十日印刷同廿二日出版、明治三十一年二月第四十一版。（著者兼発行者）大槻文彦・（印刷者）佐久間衝治・（印刷所）秀英舎。

職原抄講義 井上頼国閔・春山頼母述 一卷二冊 刊

明治二十四年十月出版。水穂会。

四書講義 稲垣真久章講述 二十冊のうち一冊 刊

明治二十四年十二月。興文社。「少年叢書漢文学講義」のうちの第五編。

史記列伝講義 稲垣真久章講述 十冊のうち二冊 刊

明治二十五年。東京興文社。「少年叢書漢文学講義」のうちの第七編、第八編。

水鏡 刊

明治廿五年。大橋新太郎編輯兼發行博文館。

冠辞考 賀茂真淵 二卷二冊 刊

明治二十九年八月。大阪交盛館蔵版。

大鏡詳解 落合直文、小中村義象 一卷二冊 刊

明治三十年七月。明治書院刊。二四五頁。

文章軌範字類全 岡野竹堂 一卷一冊 刊

明治三十年十月。小川尚栄堂。

大日本歴史 有賀長雄 二卷二冊 刊

上卷…明治四十年四月廿七日印刷、明治四十年四月三十日發行、明治四十四年十月廿四日十四版發行、下卷…明治四十一年九月廿六日印刷、明治四十一年九月廿九日發行、明治四十五年五月廿五日十三版發行。発兌元博文館。

神ながらの道 井上源之丞 一巻一冊 刊

大正十五年一月。内務省神社局刊。六八〇頁。

式辞演説大観 大畑匡山編著 一巻一冊。刊

大正十五年八月。岡村書店。箱入り。

神宮年表 神宮司庁 一巻一冊 刊

昭和四年三月。箱入り。

神宮皇學館五十年史 神宮皇學館 一巻一冊 刊

昭和七年四月・平田貫一序。昭和七年四月刊。箱入り。

神道短編講演録 岡泰雄編 一巻一冊 刊

昭和七年八月・著者序。昭和七年十二月。会通社。箱入り。

六国史神祇索引 神宮皇學館編纂 一巻一冊 刊

昭和八年三月・神宮皇學館長平田貫一序。昭和八年三月。開明堂。

箱入り。五三九頁。

模範神道雄弁講演 室松巖 一巻一冊 刊

昭和十一年六月。皇学書院。

神社読本 全国神職会・長崎県神職会 一巻一冊 刊

昭和十二年八月。政治教育協会刊。箱入り。一七四頁。

日本二千六百年史 大川周明 一巻一冊 刊

昭和十四年七月。第一書房。

ペスタロッツチー傳 長田新一冊 刊

全五巻と箱にあり、第一巻存。昭和十四年十月。岩波書店刊。箱入り。四六八頁。

最新神社法令要覧 神祇院総務局監輯 一巻一冊 刊

昭和十六年七月。京文社。箱入り。六四六頁。

大東亜戦争祝詞集 武田政一 一巻一冊 刊

昭和十八年九月。明文社刊。

参考文献

宇久町郷土誌編纂委員会（一九六七）『宇久町郷土誌』宇久町役場、宇久町教育委員会

員会

宇久町郷土誌編纂委員会（二〇〇三）『宇久町郷土誌』宇久町役場、宇久町教育委員会

員会

〔謝辞〕

資料の閲覧および掲載に際して、多大なご尽力、ご理解をいただいた宇久島神社宮司の月川徹氏に記して御礼申し上げます。なお、本目録は、平成三十年代科学研究費助成事業（研究活動スタート支援）課題番号17H06924 研究課題名 宇久町方言の包括的記述による重層的日本語史研究による成果の一部である。

(かどや たかてる・福井工業高等専門学校助教)
(ひるぬま めい・本学大学院助教)
(むらかみ よしあき・本学大学院博士後期課程)
(よしだ つかさ・本学大学院博士後期課程、
日本学術振興会特別研究員DC2)



図 1 宇久島神社